

# 高校生と国語辞典

## 一 その利用度と信頼度

### 調査・現代日本語研究会

#### 《はじめに》

私達は「ことば」に興味を持ち研究するものの集まりである。その私達の活動の中で、国語辞典は欠かせない参考書であり、研究対象でもある。この国語辞典が現実社会でどう使われ、どう感じられているのかを知るのも興味あるところである。今回、その手がかりの一つとして、高校生の国語辞典に対する調査を行った。(注1)

調査の対象としたのは、私立女子高校1、都立普通科高校6（いずれも男女共学、うち定時制1）、都立工業高校1（男子のみ）の1、2年生、男子402名、女子516名、計918名の生徒である。調査は、1984年、1月から3月にかけて行った。

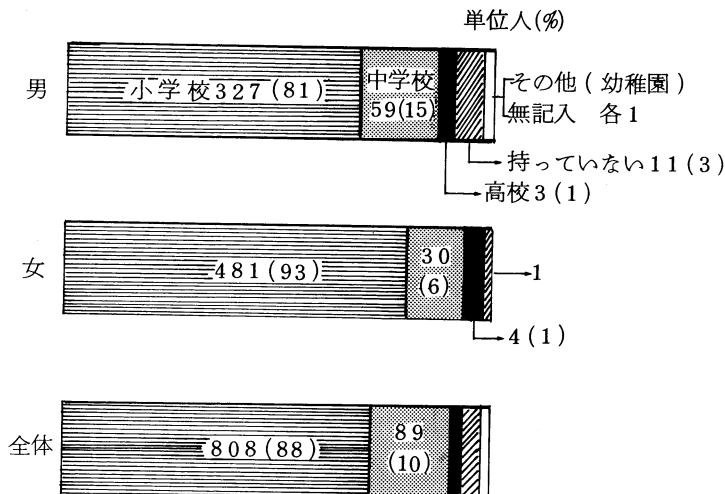
以下、アンケート調査そのままの設問を記し、次に結果を図・表で示し、簡単な考察を加えるという方法で調査をまとめていくことにする。

#### 《現在持っている辞書》

設問1. あなたが自分用の国語辞典をはじめて持ったのはいつですか。

- ア 小学校の時
- イ 中学校の時
- ウ 高校に入ってから
- エ 現在にいたるまで持ったことはない

1. 自分用の国語辞典をはじめて持ったのは？（図1）

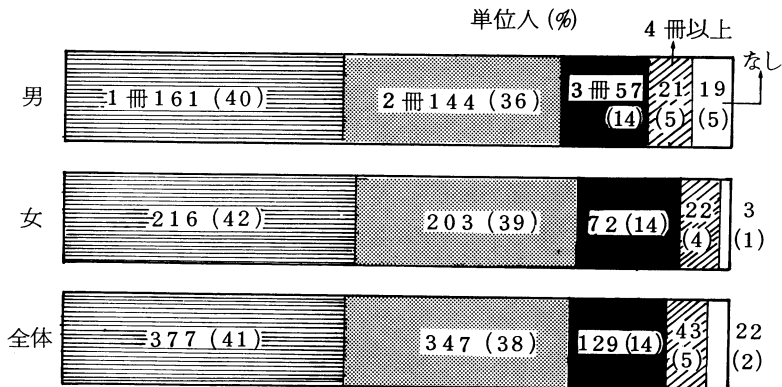


まず、高校生が最初に自分用の辞書を持ったのはいつかを聞いてみた。（図1）  
のように88%と圧倒的多数の者が小学校時代だと答えている。

設問2. 現在利用している自分用の国語辞典は何冊ありますか。

- ア 1冊      イ 2冊      ウ 3冊      エ 4冊以上  
オ 持っていない

2. 現在利用している自分用の国語辞典は？（図2）



次に現在何冊の国語辞典を持っているかをたずねたのが(図2)である。これは自分専用のものの外に、家族共用で自分も自由に使えるものを含めてもよいとしたのだが、結果は半数以上の者が2冊以上を併用していることがわかった。4冊以上と答えたものを一応4冊として平均を出してみると、男子は1.78冊、女子は1.79冊の辞書を持っていることになる。

設問3. あなたが持ち、よく利用している国語辞典はどれですか。2つ以上に○をつけても可。また、名前のあがっていないものがあれば「その他」に書いて下さい。

- ア 岩波国語辞典
- イ 角川新国語辞典
- ウ 小学館・新選国語辞典
- エ 学研国語辞典
- オ 三省堂・新明解国語辞典
- カ 三省堂国語辞典
- キ 旺文社国語辞典
- ク 講談社国語辞典
- ケ 広 辞 苑
- コ 持っていない
- サ 名前がわからない
- シ そ の 他

3. あなたの持っている国語辞典は？(複数解答)(表1)

| 男 | 子           | 人(%)   | 女 | 子           | 人(%)    |
|---|-------------|--------|---|-------------|---------|
| 1 | 三省堂・新明解国語辞典 | 89(22) | 1 | 三省堂国語辞典     | 124(24) |
| 2 | 三省堂国語辞典     | 82(20) | 2 | 岩波国語辞典      | 109(21) |
| 3 | 小学館・新選国語辞典  | 75(19) | 3 | 角川新国語辞典     | 107(21) |
| 4 | 角川新国語辞典     | 71(18) | 4 | 広 辞 苑       | 90(17)  |
| 5 | 広 辞 苑       | 58(14) | 5 | 三省堂・新明解国語辞典 | 77(15)  |

|                                                                                                                                                                                                                                                                         |          |              |          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------------|----------|
| 6 岩波国語辞典                                                                                                                                                                                                                                                                | 55 (14)  | 6 小学館・新選国語辞典 | 70 (14)  |
| 7 旺文社国語辞典                                                                                                                                                                                                                                                               | 36 (9)   | 7 旺文社国語辞典    | 62 (12)  |
| 8 講談社国語辞典                                                                                                                                                                                                                                                               | 17 (4)   | 8 学研国語辞典     | 17 (3)   |
| 9 学研国語辞典                                                                                                                                                                                                                                                                | 16 (4)   | 9 講談社国語辞典    | 16 (3)   |
| ・ そ の 他                                                                                                                                                                                                                                                                 | 22 (5)   | ・ そ の 他      | 18 (3)   |
| ・ 名前がわからない                                                                                                                                                                                                                                                              | 100 (25) | ・ 名前がわからない   | 112 (22) |
| 「そ の 他」 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清水書院国語辞典 (5)</li> <li>○ 広 辞 林 (3)</li> <li>○ 新潮社国語辞典 (2)</li> <li>○ 広 辞 典 (2)</li> <li>○ 角川国語中辞典 (2)</li> <li>○ 金園社国語新辞典 (1)</li> <li>○ 講談社文庫国語辞典 (1)</li> <li>○ 三省堂小辞林 (1)</li> <li>○ 小学館国語大辞典 (1)</li> </ul> ( )内は人数 |          |              |          |

次に持っている国語辞典の名をあげてもらった(表1)。『三省堂国語辞典』を持っている者が多く、『新明解国語辞典』もあわせると、918名のうち372名(41%)が三省堂の辞典を使っているという結果が出た。次いで『角川新国語辞典』(178名、19%)『岩波国語辞典』(164名、18%)『広辞苑』(148名、16%)『小学館新選国語辞典』(145名、16%)の順になっている。

設問4. あなたは自分用の国語辞典をどのようにして選びましたか。○はい  
くつでも可。

ア 学校・先生にすすめられた

イ 人にもらった(記念品 プレゼント おさがりなど)

ウ 自分で選んだ

ウにつけた方は、次にあげる理由についても○をつけて下さい。

a 語数が多いから

b 語釈(語意の説明)が詳しそうだから

c 文字が読みやすいから

d 値段が手頃であったから

e その他( )

4-1 自分用の辞書をどのようにして入手したか? (複数解答) (表2)

| 単位: 人(%)                |               | 男       | 女       | 計       |
|-------------------------|---------------|---------|---------|---------|
| 学校・先生にすすめられた            |               | 79(20)  | 171(33) | 250(27) |
| 人にもらった(プレゼント 記念品 おさがり等) |               | 164(41) | 246(48) | 410(45) |
| 自分で選んだ                  |               | 193(48) | 176(34) | 369(40) |
| その他                     | 親(含兄、叔母)のすすめで | 5       | 8       | 13      |
|                         | 友人のすすめで       | 2       | 4       | 6       |
|                         | 書店のすすめで       | 2       | 2       | 4       |
|                         | 家にあったものを使っている | 5       | 11      | 16      |
|                         | 計             | 14(3)   | 25(5)   | 39(4)   |

(表2)は自分の辞書をどのような方法で手に入れたかを聞いたものである。「人にもらった」辞書を使っているものが最も多い(男子41%、女子48%、全体45%)が、2番目の「自分で選んだ」が「学校・先生にすすめられた」に比べてかなり多いことが注目される。次に、自分で選んだ者が、どのような理由でその辞書に決めたのかをたずねた。予めこちらで用意した選択肢は、語数の多さ、語釈の詳しさ、文字の読みやすさ、値段、の4要素であるが、このうち高校生が辞書選びに際して最も注目したのは文字の読みやすさ(29%)であり、次いで語釈の詳しさ(26%)、手頃な値段(25%)の順である。(注2) 特に男子では値段が他の条件に優先して32%の数字を示し、女子の16%に比べ特徴的である。「その他」の中には、「図解がある」「付録頁が充実している」「英訳がついている」など内容に関するものが13名、型・紙質に関するもの15名、出版社名や著者名に因るもの11名、「なんとなく」(13名)「使いやすそうだから」(6名)などのような、いわば雰囲気派23名などがみられる。これら一見主たる内容とあまり関係ないものが多くあがっているのは、どの辞書についても内容には一応の信頼を持っていて、自分の好みや感覚で選ぶことができるのだとも考えられる。

この4つの設問でわかるのは、彼らは自分で意識し必要とする以前に既にその生活の中で何冊かの辞書と出会っていること、一方高校の時点で辞書を選ぶ時には自分自身の判断による者が多いこと、である。

# 《辞書を引く時》

設問 5. あなたが国語辞典を利用するのはどのような時ですか。○はいくつでも可。

- ア 国語の授業の時
- イ 国語の授業以外の予・復習の時
- ウ 国語以外の教科の勉強をする時
- エ 読書（文学書、単行本など）の時
- オ 新聞、雑誌を読む時
- カ 手紙など文章を書く時
- キ テレビ、ラジオ等で耳慣れぬことばを聞いた時
- ク その他

5. どのような時に国語辞典を使うか（複数解答）（表4）

| 単位：人（％）               |              | 男        | 女        | 計        |
|-----------------------|--------------|----------|----------|----------|
| 教<br>科<br>学<br>習<br>で | 国語の授業の時      | 111 (28) | 110 (21) | 221 (24) |
|                       | 国語の予・復習・自習の時 | 172 (43) | 303 (59) | 475 (52) |
|                       | 国語以外の教科の勉強に  | 60 (15)  | 86 (17)  | 146 (16) |
| 生<br>活<br>の<br>中<br>で | 読書をする時       | 96 (24)  | 126 (24) | 222 (24) |
|                       | 新聞・雑誌を読む時    | 46 (11)  | 47 (9)   | 93 (10)  |
|                       | 文章を書く時       | 229 (57) | 354 (69) | 583 (64) |
|                       | 耳慣れぬことばを聞いた時 | 97 (24)  | 104 (20) | 201 (22) |
| そ　　の　　他               |              | 50 (12)  | 22 (4)   | 72 (8)   |

(表4)は国語辞典を利用する場面についてであるが、辞書が多く使われるのは、教科に関しては国語の予習、復習、自習の時(男子43%、女子59%、全体52%)、生活の中では文章を書く時(男子57%、女子69%、全体64%)という結果が出ている。特に文章を書く時の辞書の使用率が高い。調査の答え方を見ると、1項目にしか○をつけない者もあり、一方少数ではあるが5～8項目にわたって○をつけた、つまりいろいろな場面で辞書を利用している者もあることがわかる。興味深いのは、「その他」の欄に「クロスワードを作る時」「趣味として読む」などの解答が見られ、中でも、「暇な時何となく読む」と答えた者が11名あったことである。

設問6. どのような目的でつかうことが多いですか。○はいくつでも可。

- ア わからない漢字の読み方、書き方を調べる
- イ ことばの意味を調べる
- ウ ことばの使い方を調べる
- エ その他( )

6. どのような目的で国語辞典を使うか(複数解答)(表5)

| 単位:人(%)     | 男       | 女       | 計       |
|-------------|---------|---------|---------|
| わからない漢字を調べる | 283(70) | 326(63) | 609(66) |
| ことばの意味を調べる  | 302(75) | 455(88) | 757(82) |
| ことばの使い方を調べる | 77(19)  | 89(17)  | 166(18) |
| その他         | 18(4)   | 3(1)    | 21(2)   |

5の問を更に具体的にする為に、利用の目的をたずねた結果が(表5)である。最も多いのは「ことばの意味を調べる」ためであり、「わからない漢字を調べる」がそれについている。「ことばの使い方を調べる」という解答は少ないが、これは「言葉の意味をせっかく知ってもどういふ場合に用いるのかとか、こういう場合に使ってはいけないとかがわかりにくい」(高2男子)(注3)という声にも現れているように、国語辞典の用例の不充分なこと、基礎語の語釈において使い方

の説明が不十分なこと、などむしろ辞書の側が引く者の要求に答えていない結果というべきかもしれない。

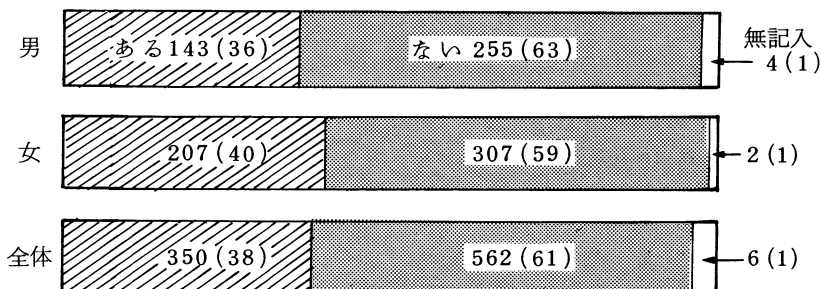
### 《辞書への信頼》

設問 7. 国語辞典を使っていて何か疑問点、問題点を感じたことがありますか。

ア ある

イ ない

7. 国語辞典に疑問点・問題点を感じたことがあるか(図3)単位人(%)



(図3)は、国語辞典を使っていて何か疑問を持ったり、問題を感じたりしたことがあるかどうかをきいたものである。38%(男子36% 女子43%)の者が「感じたことがある」と答えているのは注目すべきであろう。

設問 8. 7でアと答えた方、それはどんな点でしょうか。該当するものは全て選んで下さい。

ア 漢字のあて方が不適當でわかりにくい。

イ ことばの意味の説明がまちがっているように思われた

ウ ことばの意味の説明が充分でなく、わかりにくい。

エ ことばの使い方の例(用例)がなくて、その語の使い方がわからないことがある。

オ ことばの使い方の例が不適当である。

カ 知りたいことばがのっていない。

キ 誤植がある

ク その他 ( )

8. 国語辞典に感じる疑問点・問題点 (複数解答) (表6)

| 単位：人 (%)          | 男       | 女        | 全 体      |
|-------------------|---------|----------|----------|
| 知りたいことばがのっていない    | 82 (57) | 131 (63) | 213 (61) |
| 語釈が不充分でわかりにくい     | 71 (50) | 88 (43)  | 159 (45) |
| 用例がなく語の使い方がわかりにくい | 39 (27) | 76 (37)  | 115 (33) |
| 漢字のあて方が不適当でわかりにくい | 16 (11) | 14 (7)   | 30 (9)   |
| 用例が不適当            | 15 (10) | 9 (4)    | 24 (7)   |
| 語釈にまちがいがある        | 14 (10) | 9 (4)    | 23 (7)   |
| 誤植がある             | 4 (2)   | 0 (0)    | 4 (1)    |
| そ の 他             | 13 (9)  | 14 (7)   | 27 (8)   |

具体的にはどのようなことに疑問や不満を感じたのかをきいてみると、(表6)のように、「知りたいことばが載っていない」という答が一番多く、疑問を感じたことがあると答えたものの61%に達した。最後に自由に書いてもらった辞書への希望(注4)から判断すると、載っていなかった「知りたいことば」とは、現代用語、俗語、熟語、ある語についての反対語や同義語などを指すようである。現に「その他」にも、「熟語の反対語を調べるとき、載っていないことが多くて、とても困ったことがありました。反対語も載せてほしいと思います。ふだん使わないような難しいことばばかりじゃなくて生活の中で使っているようなことばも載せてほしいです。」(高1女子)のような注文が出されている。

手元にある何冊かの辞書の編集方針を見ると、「どこまでも現代生活に必要なものという観点から厳選した」(『岩波』)、「学校生活から一般社会生活にわ

たって必要な単語、複合語約7万数千語を見出しとして掲げた」(『角川新』)、  
「現代の言語生活において最も普通に用いられる日本語について、その多岐にわたる用法を種種の角度から内省・確認し、併せて正確・効果的な使用が可能であることを念じて編集された」(『三省堂・新明解』)、「一般社会生活用、および学習用の国語辞典として必要な現代語を漏らさぬことを期した」(『小学館・新選』)など、いずれも現代生活における必要語彙をもらさぬようにという意図が明言されている。さらに、『角川新国語辞典』や『学研国語辞典』などでは、新語の積極的な採録態度まで明記している。にもかかわらず、これらの辞書を利用する高校生の要求には充分に答えていないわけである。

疑問点として2番目に多くあげられたのは「語釈の不充分さ」(45%)である。設問8の「その他」に書かれた「一つの語句、たとえばAとする。それを調べるとBと出ている。さらにそれを調べるとAというふうにローテーションしてしまい結局わからない」(高2男子)という意見は我々もしばしば経験するところである。また語釈のことばそのものの難解さ、かた苦しさ等の指摘も見られた。たとえば、「『～の漢語表現』とだけ書いてある項目がわかりにくい」(高1女子<sup>(注5)</sup>)などである。

採録、語釈について、「用例の不充分さ」(33%)があげられている。この為設問6で述べたように「ことばの使い方を調べる」という利用法が少ないという結果になるのではなかろうか。

それでは、辞書は彼ら高校生に信頼されていないのだろうか。(表7)は高校生の辞書への信頼度を示すものである。

設問9. 教科書に出てきた難しい漢字、ことばを確認しようと辞書を調べたところ、その書き方や説明のしかたに教科書とは違うところがありました。この場合、あなたはどうしますか。

ア 教科書に書かれたことを正しいと思う。

イ 辞書に書かれたことを正しいと思う。

ウ 他の辞書(より大型のものなど)を調べ、その辞書の説明にしたがう。

エ 先生や他の人に聞いて判断してもらう。

オ その他 ( )

9. 教科書での説明と辞書の説明に食い違いがある時は？(表7)

(特に複数解答としなかったが、2つ以上答えたものあり)

| 単位：人(%)             |                      | 男        | 女        | 計        |
|---------------------|----------------------|----------|----------|----------|
| 先生や他の人に聞いて判断してもらう   |                      | 102 (25) | 218 (42) | 320 (35) |
| 他の辞書(より大型のもの等)を調べ従う |                      | 99 (25)  | 168 (33) | 267 (29) |
| 辞書に書かれたことを正しいと思う    |                      | 96 (24)  | 58 (11)  | 154 (17) |
| 教科書に書かれたことを正しいと思う   |                      | 49 (12)  | 48 (9)   | 97 (11)  |
| その他(男5. 女3の無記入を含む)  |                      | 57 (14)  | 47 (9)   | 104 (11) |
| 自分で判断する             | 自分で判断する              | 15       | 9        | 24       |
|                     | いくつかの辞書をひきよいと思うものを選ぶ | 1        | 4        | 5        |
|                     | その時(文脈)等に応じ判断する      | 2        | 4        | 6        |
|                     | 自分にわかりやすい方を選ぶ        | 1        | 2        | 3        |
|                     | 自分の説を編み出す            | 2        | 1        | 3        |
| 両方正しいとする            | (気にせず)どちらも正しいと思う     | 7        | 6        | 13       |
|                     | 両方とも覚えてしまう           | 5        | 4        | 9        |
|                     | 両方を総合して理解する          | 1        | 1        | 2        |
| 辞書による               | いくつかの辞書をひき多いものをとる    | 1        | 4        | 5        |
|                     | 教科書会社に問いあわせる         | 2        | 0        | 2        |
| 放棄                  | あきらめ放っておく            | 7        | 3        | 10       |
|                     | わからない                | 0        | 2        | 2        |

「先生や他の人に聞いて判断してもらおう」という者が35%で最も多いが、それに次いで「他の辞書 — より大型のものなど、で調べる」(29%)「辞書に書かれたことを正しいと思う」(17%)が多く、合わせると46%(男子49% 女子44%)にもなる。「教科書を正しいと思う」者は11%にすぎない。「その他」の項でも「教科書会社にまちがっているのではないかと問い合わせる」という者はいるが、「辞書の出版社や編集者に問い合わせる」と答えたものはいない。最初にひいた辞書をすぐそのまま信頼するというのではなくても、「その他」に書かれた「いくつかの辞書をひき多いものをとる」「いくつかの辞書をひき、最もよいと思えるものをとる」等も含め、とにかく辞書によって答を出そうとする者がほぼ半分いるということには注目してよいだろう。設問7や8で明らかになったような不満や疑問があるにしても、やはり辞書は頼られているのである。

設問10. 例えば次のような語について調べたいときあなたはどのようにしますか。

(あげた例は知っている人もいると思いますが仮に知らない、わからないこととして考えて下さい)

(1) 「圀圖」という語の読み方と意味

- a 国語辞典で調べる
- b 漢和辞典等の辞典で調べる
- c 先生に聞く
- d 親、その他の人に聞く
- e その他( )

(2) 「あらわす」という漢字の使い分け方

- a 国語辞典で調べる
- b 漢和辞典等の辞典で調べる
- c 先生に聞く
- d 親、その他の人に聞く
- e その他( )

(この2つの語は、意味がわからないもの、漢字の使いわけがわからないもの単なる例であって他意はない)

10-1 「圀圀」の読み方と意味を調べるには？（表8）

（特に複数解答としなかったが複数答えたものあり）

| 単位：人（％）                   | 男       | 女       | 計       |
|---------------------------|---------|---------|---------|
| 漢和辞典等をひく                  | 264（66） | 391（76） | 655（71） |
| 国語辞典をひく                   | 77（19）  | 76（15）  | 153（17） |
| 親、その他の人にきく                | 48（12）  | 63（12）  | 111（12） |
| 先生にきく                     | 21（5）   | 7（1）    | 28（3）   |
| その他                       | 15（4）   | 3（1）    | 18（2）   |
| ・ 国語・漢和両方をひく              | 3       | 3       | 6       |
| ・ あきらめてひかない、調べない<br>（無記入） | 12      | 0       | 12      |

10-2 「あらわす」の漢字のつかいわけ方を調べるには？（表9）

（特に複数解答としなかったが複数答えたものあり）

| 単位：人（％）                    | 男       | 女       | 計       |
|----------------------------|---------|---------|---------|
| 国語辞典をひく                    | 321（80） | 461（89） | 782（85） |
| 漢和辞典等をひく                   | 34（8）   | 37（7）   | 71（7）   |
| 親、その他の人にきく                 | 23（6）   | 20（4）   | 43（5）   |
| 先生にきく                      | 11（3）   | 3（1）    | 14（2）   |
| その他                        | 20（5）   | 5（1）    | 25（3）   |
| ・ 無記入                      | 8       | 4       | 12      |
| ・ やらない、適当にこじつける<br>カンで判断する | 12      | 1       | 13      |

次にたずねたのは、ある語を調べる場合、辞書に頼るか、人に頼るか、である。「圀圀」では辞書をひく者が88%、「あらわす」では92%にも達し、親、先生他、人に聞くというパーセンテージを大きく上回っている。その「人に聞く」方

をまとめると、「圀圀」は15%、「あらわす」は7%になる。この差は、「あらわす」の漢字の使い分けが、誰にでもわかっているようでありながら、人に聞いてははっきりした答が得られる可能性が少ないことによるとも思われる。ある語について確認したいという状況の下では、辞書が最も頼りにされているとすることができる。

設問11. 辞書はこれからのあなたの生活においてどの程度必要性のあるものですか。

- ア 一生手離せない
- イ 一生どちらかといえばあった方がよい。
- ウ 学校に通っている間は手離せない。
- エ 学校に通っている間はどちらかといえばあった方がよい。
- オ 現在は必要がないが社会に出てからは手離せない。
- カ 現在は必要がないが社会に出てからはどちらかといえばあった方がよい。
- キ 現在も将来においても特に必要とは思えない。
- ク その他 ( )

11. 辞書はこれからの生活においてどの程度必要か？(表10)

| 単位：人(%)                | 男        | 女        | 計        |
|------------------------|----------|----------|----------|
| 一生どちらかといえばあった方がよい      | 206 (51) | 312 (60) | 518 (56) |
| 一生手離せない                | 110 (27) | 159 (31) | 269 (29) |
| 学校にいる間はどちらかといえばあった方がよい | 26 (6)   | 14 (3)   | 40 (4)   |
| 学校に在る間は手離せない           | 12 (3)   | 20 (4)   | 32 (3)   |
| 現在は不要、社会に出てからはあった方がよい  | 6 (2)    | 4 (1)    | 10 (1)   |
| 現在は不要、社会に出てからは手離せない    | 6 (2)    | 0 (0)    | 6 (1)    |
| 現在も将来も特に必要はない          | 20 (5)   | 3 (1)    | 23 (3)   |
| その他(男5女1の無記入を含む)       | 16 (4)   | 4 (1)    | 20 (2)   |

最後に、現在および将来の生活の中で国語辞典がどの程度必要だと思うかをきいてみた。「一生手離せない」と答えた者は29%（男子27%、女子31%）あり、「一生どちらかといえばあった方がよい」を加えると85%にも及ぶ。「現在も将来も特に必要ない」とした者は3%にすぎない。

辞書には、「知りたいことはがのっていない」「語釈が不十分でわかりにくい」「用例がなくて語の使い方がわかりにくい」などの意見も多いが、教科書よりも、先生や他の人々よりも信頼できる — というあたりが圧倒的多数の辞書に向かう姿であり、信頼の度合いであるといえそうだし、それが設問11の今後の必要性をどう考えるかにも反映しているようだ。現代の高校生たちが求めている辞書は、以上のような意識を反映して、現代的な日常語が充実した、幅の広い利用に耐えられるようなもので、大きさ、ひきやすさ、字の大きさ、値段などの点にも配慮が施されたものである。今回のこの私達の調査が、今後のよりよき辞書づくりの一助となれば幸である。

注1 『言語生活』388号(1984.4)に編集部が大学生及び統計数理研究所  
 所員144名に対して行った「辞典の利用状況」の調査報告がある。今回の  
 私達の調査と照らし合わせるとおもしろいと思われる点もいくつかあるが、  
 全体に及んで対応させることができないので、本稿では比較しての言及を  
 避けた。

注2 内訳は次の通りである。

自分で選んだ場合の基準は？(複数解答)

| 単位：人(%)    |  | 男      | 女      | 計       |
|------------|--|--------|--------|---------|
| 語数が多い      |  | 38(20) | 28(16) | 66(18)  |
| 語釈が詳しそうだから |  | 46(24) | 51(29) | 97(26)  |
| 文字が読みやすい   |  | 50(26) | 57(32) | 107(29) |
| 値段が手頃だった   |  | 62(32) | 29(16) | 91(25)  |
| その他        |  | 54(28) | 57(32) | 111(30) |

注3 本文には載せていないが、アンケートの最後に、自由に意見や感想を書  
 いてもらうスペースを設けた。この意見はそこからの抜粋である。

注4 同上

注5 同上